

平成24年度企業ボランティア松江ネットワーク会議記念講演会



前開星高校野球部監督野々村氏による記念講演会 (24.9.24)

新たな出発を



企業ボランティア松江ネットワーク会議

会長 金津任紀

平成二十四年九月二十四日の総会で会長に就任しました金津でございます。諸先輩によって導かれた伝統ある当会の会長を務めさせて頂くことになり、責任の重大さを感じております。微力ではございますが、企業ボランティアの活動推進のために全力を尽くす所存でございますので、どうか皆さまのご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

本会は、平成九年十一月にボランティア活動を通じて社会に貢献できる企業像の創造を目指して発足しました。企業の小地域単位のボランティアネットは全国的にも珍しく、昨年には国立教育政策研究所社会教育実践研究センター視察・取材を受けた所でございます。二十四年十一月で結成十五年を迎え、現在会員数が一般会員七十二団体、個人会員三十八人となり、多くの会員に支えられ活動してきております。

発足当初からの「地域の発展なくして企業の繁栄なし」という理念のもと、各企業それぞれの特色を生かして地域貢献活動を行ってきました。昨年度は、松江

水郷祭後の清掃活動への参加、松江水燈路での行事共催、赤い羽根共同募金運動街頭募金活動への参加、市民余芸大会へのチケット販売の協力、松江市ボランティアアフエスティブルの共催等を行いました。

設立して十五年が経ち、企業のボランティアへの意識は大変高くなり、広報誌「企業ボランティアネットワーク会議」でも度々お知らせしております通り、会員の皆さまが、事業所の活動として様々な社会貢献活動を実施されております。

その上、時代の変化とともに、年々企業の社会貢献活動に対する期待が大きくなっていく中、関係機関・団体等と連携を図り、活動を進めていくことが大変重要になっております。

そのため、会員の皆さまには、今後とも企業等の社会貢献活動の振興を図るため、これまで以上のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、就任のご挨拶とさせていただきます。

顧問

松浦 正敬 (松江市長)

加藤 滋夫 (松江社会福祉協議会会長)

古瀬 誠 (松江商工会議所会頭)

金津 任紀 (カナツ技建工業(株)代表取締役社長)

森脇 徹男 (株山陰中央新報社代表取締役社長)

大谷 厚郎 (松江ロータリークラブ会長・(株)一畑百貨店代表取締役社長)

杉谷 雅祥 (公社) 松江法人会会長)

井上嘉保留 (くにびき農業協同組合代表理事組合長)

常任委員

委員長 金津 任紀 (会長兼務)

副委員長 森脇 徹男 (副会長兼務)

副委員長 大谷 厚郎 (副会長兼務)

中澤 強 (松江南ロータリークラブ会長)

矢田 和弘 (松江東ロータリークラブ会長)

陶山 秀樹 (松江しんじ湖ロータリークラブ会長)

飯塚 亮一 (中国電力(株)上席執行役員高根支社長)

紅花 昌秀 (松江青年会議所理事長)

足達 明彦 (株山陰合同銀行地域振興部長)

田頭 基典 (株島根銀行取締役頭取)

幹事

幹事長 木村 和夫 (松江商工会議所専務理事)

細田 明雄 (公社) 松江法人会専務理事)

勝部 晋 (松江ロータリークラブ社会奉仕担当理事兼委員長)

門脇 末子 (松江南ロータリークラブ社会奉仕担当(社会奉仕委員長)

井上 悟 (松江東ロータリークラブ社会奉仕リーダー)

又賀 敬子 (松江しんじ湖ロータリークラブ奉仕プロジェクト理事(社会奉仕委員長)

本庄 雅樹 (松江青年会議所副理事長)

専門委員会 (組織・広報・研究・啓発・社会福祉・環境)

相談役 木村 和夫 (幹事長兼務)

委員 ◎印 委員長、○印 副委員長

○井原 友一 (組織・広報) (有)太陽平版代表取締役会長

中筋 廣昭 ( ) (有)まなか建設(株)代表取締役

杉原 英明 ( ) (株)山陰中央新報社総務局長

大内 茂 ( ) (株)コスモブレイン代表取締役

小川 広明 (研究・啓発) (有)中国電力(株)島根支社(広報担当)マネージャー

池淵 功二 ( ) (有)松江自動車用品商會代表取締役社長

原 光 ( ) (株)赤徳商店代表取締役

今岡 友伸 ( ) (有)TOM住環境技術代表取締役

今岡 克己 ( ) (株)ワコムアイティ代表取締役

◎角田 敦志 (社会福祉・環境) カナツ技建工業(株)営業部専門部長

梶谷 邑 ( ) (有)邑建築研究所取締役社長

入澤 輝男 ( ) (医)入澤クリニック理事長

周藤 正二 ( ) (有)くにびき農業協同組合総務部長

小山 満 ( ) (株)ユニコン代表取締役社長

足達 明彦 ( ) (株)山陰合同銀行取締役地域振興部長

勝部 裕 ( ) (株)島根トヨベツ(株)代表取締役社長

葉袋 純二 ( ) (有)三井住友海上火災保険(株)山陰支店長

塚本健太郎 ( ) (有)住友生命保険(株)松江支社長

○山本 寿子 ( ) (有)うなぎやくも取締役

【新規加入会員のご紹介】

(平成二十四年七月)

(平成二十五年六月まで)

《個人会員》

☆高橋 禮子 様

☆大谷 勝實 様

☆坂本 和子 様

総会・記念講演会報告

平成二十四年度総会が九月二十四日(月)、松江市総合福祉センターにおいて開催されました。昨年度の事業報告及び決算の説明があり、次に、今年度の事業計画、予算について審議され、全員一致で承認されました。

その後、記念講演会として、前開星高校硬式野球部監督の野々村直通氏をお迎えし、「私の教育論と感謝、歓喜、感動」という演題でご講演をいただきました。

ご講演では、開星高校野球部監督時代に実践されていた、野球を通しての教育論をユーモアを交えてお話頂きました。

二〇一〇年選抜高校野球大会での監督の発言により、マスコミに大きく取り上げられ世間を騒がせた事で一度は監督を退任されました。しかし、野々村氏の高校野球に対する姿勢を理解し



平成24年度 企業ボランティア松江ネットワーク会議総会

の日本大学第三高等学校との激戦を戦われました。

以下講演の概要です。

「開星高校の監督就任時は、野球部はバラバラで、チームとしてまとまりがなかった。野球どころではなく、学校生活あるいは授業態度から指導することが八割、九割であった。その中で子供達に一つのテーマを持たせ、野球部の為に球心神社を作り、そこに手を合わせ事からやった。そこで、『目指せ日本一』ととてもない、地元で馬鹿にされる様な大きな目標の看板を立てたり、野球部のモットーとして部訓を作った。その部訓が、本日の演題である、感謝、歓喜、感動の3Kである。頭文字がすべてK。これを発想したのは、私が大学生前後に若者が最も嫌う職業3Kというものがあった。それは、危険な仕事、汚い仕事、きつい仕事という3Kだった。このマイナス思考の3K。みんなが嫌がる職業。こんなことをふれ回って、いかにも若者に汗を流して、スコップを使って動くことは汚い事だと言う様なイメージを与え、いかに日本が甘く、平和ボケしている中で、私はそう言う子どもを作っているといけないという事で、同じ3Kでも素敵な言葉を作ろうと思いついたのが、まず感謝から始めよう。そして感謝をしながら一生懸命魂をこめて生きていけば必ず喜びがある。あるいは、嬉しい結果がでる。この時に歓喜が湧き、喜びを感じるんだと。その喜



びを常に求めて積み重ねていくと最後にそれが人生の中の感動となる。歓喜というのとは、いろいろある。例えば、一生懸命勉強をしたが成績が悪かった。しかし、勉強を続けついに成績が上がり五十点だったのが八十点になった。この時は喜びである。いい点を取れたと。でも、これは歓喜である。成績が上がっても感動ではない。私は、今本当に思うのは感動というものは、感謝したもののが感動になる。

まず野球が出来ることに感謝をし、始めようじゃないかと言う事でスタートして、それを重ねていって、真心こめて頑張れば良い結果が出る。必ず良い結果がどこかで出る。その時、喜びあおうじゃないか。こういう歓喜が生まれる。それを、また頑張り続けたら感動、震えるような喜びがある。これが一番人生で求めているものであつて、お金が儲かったとか、いい車に乗れたとか、いい家に住めたとかそういうものは、歓喜ではあるけれども、やはり私は人生の中の感動ではないと思う。だから、やはり人生は感動を求めていく。司馬遼太郎は、若者達に向

「君達は、いい生活を送りたいと思っ

言っている。生活と人生の違いである。生活は物が豊かで、満たされている。こういうことが生活である。これは、いい生活である。おいしい物がたらふく食べられる。りっぱな家に住める。いい車に乗れるなどというのはいい生活をしていくこと。でも、いい人生とは、これは貧しくてもいい。貧しくても例えば、人に尊敬されるとか、喜ばれる仕事をできて全うしたら、これはいい人生である。

今の若者は、いい生活を求めすぎる。本当の人間とは、いい人生を求めないといけないんだと言っている。私も、なにかそれに近い様なものを、野球部の子ども達に感じてもらうと思つて、人生は3Kだよ。これも順番があつて、最初から感動を得ようと思つて頑張つたら駄目なんだと。まず、すべての事に感謝をして始めよう。そうしたら、歓喜になって最後に感動の人生になるからと言う事を教えている。だから、頑張りよと。

必ず歓喜が来て最後に感動になるから頑張りよと、こう言つて頑張りよと。これが、私の今日書いてある、感謝、歓喜、感動である。」

現在教育現場で問題になっている、イジメ、体罰、教師のあるべき姿を野々村氏の教師生活の経験からの見解を聞く事ができました。聴衆した約二〇〇人の方々も、野々村氏の講演に感謝・歓喜・感動されました。

## 赤い羽根共同募金運動街頭募金活動に協力(平成24年10月1日)

◎赤い羽根共同募金伝達式及び県民会館周辺での街頭募金活動  
 ▲協力企業▼  
 ジブラルタル生命保険(株)  
 松江エリア  
 ◎J.R.松江駅、みしまや田和山店・春日店での街頭募金活動  
 ▲参加企業▼  
 ・カナツ技建工業(株)  
 ・(株)山陰合同銀行

・まるなか建設(株)  
 ・三井住友海上火災保険(株)山陰支店  
 募金額四四、九五二円  
 皆さんのご協力有難うございました。



## 水燈路への協賛



表彰式の様子

平成十五年より松江市では、市民や観光客が夜の城下町を散策できるよう行灯を堀川沿い・松江城等に展示し、風情のある夜を楽しんでもらうよう演出をされています。当会もこの行事に平成二十一年から協賛しており、昨年より水の都松江の幻想的な夜のまちづくり」に協力いたしました。

## 第64回歳末たすけあい松江市民余芸大会への協力

毎年恒例の歳末たすけあい松江市民余芸大会が平成二十四年十二月十五日(土)鳥根県民会館で開催されました。当会として参加及びチケット販売に協力いたしました。当会より山陰合同銀行混声合唱団が出演し、東北の一日も早い復興への願いを込めて曲目「花は咲く」を精一杯歌い、市民の皆さんに喜んで頂きました。

入場券販売実績  
 六十五枚 一、二七、〇〇〇円  
 ご協力、大変有難うございました。

## 第8回松江市ボランティアフェスティバル

広がれボランティアの輪  
 『つなげよう!「ありがとう」を』

三月二十四日(日)第八回松江市ボランティアフェスティバルが松江市総合福祉センター及び松江市在宅福祉サービスセンター(千鳥町)において開催され、約一、二〇〇名(ボランティア・スタッフ含む)の参加者でにぎわいました。当会も主催団体として、実行委員また出展、スタッフとしてフェスティバルを実施しました。今回のフェスティバルでは、「つなげよう!「ありがとう」を」サブテーマとし、あらゆる世代を超えた交流、さらには次世代に向けたボランティア意識の啓発ができました。



「離れていても出来る支援を! 松江に根付かせた一年(二〇二〇年)」  
 未曾有の東日本大震災から九か月が経った二〇一一年十二月末、県の「新しい公共のモデル事業」の震災特別枠の採択を受けてスタートした当会は、二〇一三年三月をもって助成期間が終了しました。過日、今までの活動を県に報告したところです。企業ボランティア松江ネットワーク会議の皆様には、期間中、多大なるご支援とご協力を賜りましたこと、厚くお礼申し上げます。

「支援、協力ありがとう!」

松江・島根支援協議会事務局 桑谷 猛

期間中、力を入れて実施した東北物産の支援販売は、二十六回の販売で約二五〇万円の売上でした。商品単価から考えると、単純計算でも約六〇〇〇人の方に購入して頂いたこととなります。また販売には一〇〇〇名を超える市民ボランティアさんに協力いただきました。「買って食べる」ことが支援になるという気付きを得られたという声も数多く聞き、当初当会が目指していた「松江・島根から出来る支援」、「一人でも多くの市民の方と一緒に」という目的を果たせたと実感しています。また、不要な農機具を東北に送る活動も、五台を送り現地で活躍しております。二十五年度以降は活動内容の見直しを行いながら、活動費を調達し、有志の力で活動を継続していく予定です。既に、支援品販売の予定も動き出しています。今後とも当会へのご支援、ご協力をよろしくお願ひ致します。(当面、当会への問い合わせ窓口は(株)ワコムアイティ内桑谷となります)

### その他の活動報告

◎松江水郷祭早朝清掃作業  
 7月29日(日)・30日(月)

約300名参加(8企業)